

# 功績と精神を未来に

## 資生堂創業者の館山で15日 語る会開く

館山市出身で資生堂創業、福原有信の没後90年事業として、「ふるさと館山松岡の偉人・福原有信を語るつどい」が15日午後1時半から4時半まで、県南総合文化ホールで開かれる。地元有志でつくる福原有信を語り継ぐ会、同市松岡区、NPO法人安房文化遺産フォーラムの3者が主催、房日新聞社など後援。福原の功績とその精神を地域の誇りとして、未来

に語り継いでいくこうとうい。無料。

当日は、資生堂企業文化部企業資料館の佐藤朝

美氏が記念講演。安房文

化遺産フォーラムの池田

恵美子事務局長をコ

ーディネーターに、福原原

「福原有信を語るつどい」のチラシ



さん(福原家の分家)、早川萬専さん(語り継ぐ会世話人、松岡区長)、早川政義さん(同世話人代表)、吉田茂徳さん(同世話人、天野努さん(安房歴史文化研究会長)、愛沢伸雄(安房文化遺産フォーラム代表)の6人が座談会形式で語る。関連行事で、同日午前10時半から11時半に「福原有信のふるさと松岡を歩こう!」も開く。安房特別支援学校前に10時20

分までに集合し、松岡八幡神社、福原家跡、小塚大師(福原の墓)を巡る。福原有信は嘉永元年(1848)に松岡村(現館山市竜岡)の医者の子に生まれる。17歳で上京し西洋薬学を学び、海軍病院薬局長を経て、明治5年に日本初の洋風調剤薬局「資生堂」を東京・銀座に開き、医薬分業の礎を築いた。房州白土を使った「福原衛生歯磨石鹸」を開発し、近代日本の公衆衛生に大きな足跡を残している。

また、明治21年に帝國生命保険会社を設立し、水難事故の多かった漁村の救済にも貢献。同29年には安房銀行を設立し、ふるさとへの経済振興にも大きな役割を果たしている。大正13年に76歳で他

界した。長女は館山病院の初代院長、川名博士の妻となり、四女は日本資本主義の父といわれる渋沢栄一の父に嫁いだ。館山病院は関東大震災で倒壊したが、福原の支援で療養型サナトリウムとして再建され、資生堂が窓口となって保養地館山の名を全国に広めた。

渋沢も虚弱児童の療養施設として東京養育院安房分院(現船形学園)を開いている。

問い合わせはイスマ野  
外学習サポート(047  
0-22-7586)へ。